会議録（要点筆記）

会議の名称	令和6年度登別市地域福祉推進市民会議
開催日時	令和6年12月17日（火）18時00分～
開催場所	登別市役所 2階 第2委員会室
会議内容	1. 委嘱状交付 2. 議事 （1）第3期登別市地域福祉計画の令和5年度評価について （2）基本目標に係る総合評価の提出及び評価の取りまとめ方法について

1. 委嘱状交付

変更となった委員に対し、委嘱状を交付。

2. 議事

（1）第3期登別市地域福祉計画の令和5年度評価について
（会長が議長になる）

会 長：計画の評価方法について事務局から説明をお願いします。

事務局：進捗状況評価シートに沿ってシートの内容について説明。

会 長：ご意見等ございますか。

なければ、基本目標ごとに評価を行いたいと思うので、基本目標1について事務局より説明願います。

事務局：進捗状況評価シートに基づいて説明。

（定量的指標として、今年度評価から認知症カフェ開催回数を追加。）

会 長：目標1については3つの進捗の評価を頂きましたので、1つずつ確認していきます。

1つ目の担当の評価はAとなっており、昨年と比べて大きく変わった点はないような状況です。ご意見やご質問はございませんか。

意見等ありませんので、市民会議としても担当評価と同様のA評価としてよろしいですか。

委 員：異議なし

会 長：次に2つ目に入ります。ここの取り組みとしては、社会福祉協議会や校区のきずな推進委員の方々も様々な取り組みを行っている状況です。町内会を中心とした小地域ネットワークは100%ではありませんが、78の町内会が参加されている状況です。担当としては、まだ、取り組みの余地があるということでB評価となっています。

委員：現在、小地域ネットワークは93町内会のうち78の町内会が参加しているが、中身が伴っていない。この事業は、支援を必要とする方の見守り・助け合いをするものだが、支援をする方の対象が広く、町内会も役員がいなくて活動できる状態ではないため、真に見守り・助け合いを必要とする方の絞り込みをする必要がある。

また、登別市では個別避難計画を策定しています。各町内会で自ら避難することができない人を絞り込み、災害時に時間に余裕がある場合に介助し避難所まで連れて行くことを実施するものだが、この個別避難計画と小地域ネットワークの連動が必要なのではないかと思っている。

現在、社会福祉協議会では小地域ネットワークのきずなづくり台帳の見直しを行っているところです。対象者を絞った体制づくりが必要でありますので、きずな台帳の見直しに期待しています。

会長：ここ数年の間に新型コロナウイルス感染症の蔓延により、取り組みの状況が大きく変わってしまい、まだ、コロナ禍前のような活動に戻っていない状況であると感じている。役員のなり手がいないことや支援する対象範囲が広いことなどを課題として出して頂きました。

社会福祉協議会でも取り組みの見直しをかけたいと今年度から動き出しているところで、やはり、小地域ネットワークの再構築を図らなければならないとの指摘があり、見直しを進めているところです。

委員：小地域ネットワーク活動は、地域の支え合いの基本となる取り組みで、小地域という身近な地域の中で気になる人を支える地道な地域の支え合い活動です。コロナ禍によって近くに寄ることが禁じられてしまい、地域の活動が展開できない時期が4～5年続き、大きく影響を受けている状況です。そのような中でも町内会のみなさんがいろいろな工夫をしながら、地域の繋がりを絶やさずに活動をより良いものにしていこうと取り組まれています。

日頃の支え合いのほかに、加えて問題になっているのが、災害時の避難行動で、自力で避難のできない高齢者や障がいのある方と、どのように一緒に避難するかというのが地域の問題として投げかけられている状況です。

このような状況の中でも、積極的に取り組みを行っている連合町内会があります。高台まで避難命令を出しても自力で避難できない方が地域の中に多くいるため、実際に避難できない方が何人いるのか、そして避難所に行くまでどのような方法で避難をするのかを町内会活動の中でしっかり把握して、地域の中でお互いに考えながら支え合う活動をモデル的に実施しています。

このような取り組みは、評価としてはA以上のものと思われ、先駆的な取り組みを実施しているものだと思います。これらの活動を全市的に広げていかななくてはならないことから、町内会だけではなく社会福祉協議会も日頃の支え合い活動については災害時も想定して、災害時であっても支えていけるような活動を推進しているところです。

評価の項目で、取り組んでいる町内会の数だけでは、評価が難しいところがあるため、小地域ネットワーク活動の参加町内会がどのような取り組みをしているのかを項目に加えて、実際の活動が広がっていることが見えるようにしてもらいたい。

会 長：コロナにより停滞しましたが、組織化としては7割となっており、小地域ネットワークへの参加は届け出制度になっているため、それなりの責任があり、町内会に認識もされている。

しかしながら、課題が掘り起こされていますので、再度、見直しをして活かしていく必要がある。さらに、個別避難計画が全市的に展開していませんので、行政と社協との連携を図りながら拡大していく必要があると感じる。

厳しいご意見のあった中で取りまとめさせていただきますが、次年度に繋げていくことも含めてB評価とさせていただきますが、よろしいでしょうか。

委 員：異議なし。

会 長：3つ目については、民生委員や地域包括支援センター（包括）などの支援体制のことになりますが、中身的には前年度の踏襲となっており、取り組みも継続している状況です。日常の活動としても民生委員・児童委員を中心に支援を行っているものとして、担当評価及び前年度の評価がAということも含めて、今年度の評価をAにしたいと思いますが、ご意見等ございますか。

委 員：意見・異議なし。

会 長：次に基本目標2について説明願います。

事務局：進捗状況評価シートに基づいて説明。

（定量的指標として、介護予防教室参加者数（延べ）及び介護予防活動リーダー育成研修実施回数を追加。）

会 長：担当としてはC評価となっており、令和4年度の評価もC評価となりますが、取り組みとしてはあまり変わらなかったということと、生活支援体制整備事業の取り組みの浅さがあるとの評価です。生活支援体制整備事業の評価だけではなく、全体的に評価が低めで、もう少し頑張らなければならないといった状況です。

委 員：老人クラブでは、役員のなり手がいない、コロナで外に出たくないなどで退会する会員もこの3～4年の間で出た状況である。指標の中の老人クラブ数は、登別市老人クラブ連合会（登老連）に加盟していたり、市から活動助成金を交付されているクラブ数である。それ以外にも、町内会には老人クラブは存在しているが、会員数の減少や、役員のなり手不足に苦慮している状況である。

登老連から退会したいと申し出があった際には、個別に話し合うことで引き止めており、まずは休会して1年休んで様子を見てもらうことを促している。休会している老人クラブであっても登老連の主催する新年交礼会に会長・副会長を招くなどの働きかけをして繋ぎ止める努力をしている。

会 長：老人クラブの数は当初から見ると数は減ってきている。すぐに退会という判断を下すのではなく、休会してもらい様子を見るのはいいアイデアだと思う。

委 員：老人クラブという名称が良くないのではないか。例えばシニアなどに名称を変えた方がいいのではないか。老人クラブに入れる年齢になったとしても、老人と

思っている方は少ないため、名称を変えることでクラブに参加して地域貢献をしてくれるのではないか。

委員：コロナ前の話ですが、北海道老人クラブ連合会（道老連）が愛称を「キタシルバ」と決めました。今まで道老連と言っていたのにキタシルバは覚えられないなどの意見があった。また、あるところでは、シニアなどの横文字に変えたことがあるが、結局、その団体には老人しかいないため、名前を変えても意味がないといった話が出ていた。

これらの意見を踏まえ、道老連も名称を変えることを考えているが、それに伴って活動などの中身も変えていかなければならないと思っており、皆さんの意見を参考に組み組んでいきたいと思っている。

会長：老人クラブという名前は確かに入りづらいと思う。

また、市の施設でコミュニティセンター（旧・老人憩の家等）は町内会が管理しているが、すべての町内会にあるわけではない。いつでも使える施設があれば、活動が活発になるのではないかと思う。

高齢者施策の取り組みについては、期待しつつにはなりますが、評価としてはCでよろしいでしょうか。

委員：異議なし。

会長：次に2つ目に移ります。前年度の事業を踏襲しており、SOS ネットワークの取り組みなど包括と連携しながら大事な事業を推進していることからA評価となっています。会議でもA評価としてよろしいでしょうか。

委員：異議なし。

会長：次に3つ目に移ります。介護サービス、介護保険のことになります。これまでもしっかりとした取り組みを行っており、令和5年度も同様に取り組みが実施されているということですが、評価としてはAとしてよろしいでしょうか。

委員：異議なし。

会長：次に基本目標3となります。事務局より説明願います。

事務局：進捗状況評価シートに基づいて説明。

（定量的指標として、自殺予防ゲートキーパー研修会開催回数を追加。）

会長：1つ目は健康づくりの意識づけとなりますが、行政としても、もう一歩といった評価でB評価となっていますが、ご意見等ございませんか。

令和4年度同様ですが、意見がないようなのでB評価としてよろしいですか。

委員：異議なし。

会長：2つ目になります。自殺をどうやって防ぐかは難しい問題である。市民に対す

る啓発を行うことや相談窓口としても難しさがある問題ではあるが、担当としてはしっかりと取り組んでいるとの判断でA評価となっている。

委員：市民に対して様々な活動を行っている点を踏まえればA評価で良いと思う。しかし、多くの方が市内の特定の場所で自殺をしているといった痛ましい実情がある。やはり、その場所に対して何か対策を講じないと評価に違和感がある。

委員：評価の基準の判断は、計画を立てて、当初の目標どおりに進んでいるかどうかの判断である。成果の部分は評価の論点が難しいところでもありますが、A評価だから完璧なものではないということを改めて確認していくことが必要だと感じた。

登別は自殺対策については、他市町村と比べても先行して議論もされていることを踏まえるとA評価は妥当ではないかと思う。

また、この項目は保健予防活動の充実となっており、がん検診などを含めた取り組みを考えていくと、全体的に予防活動ができていると思う。

委員：啓発等の活動がされているので評価はAで問題ないと思うが、市内にそのような場所があることが課題であり、対策が必要である。

事務局：自殺に特化した中でお話ししますと、専門部会を開き様々な角度で話をしますし、ハード的な対策も必要だという意見も出てますので、対策を考えていかなければならないと思っている。

今年度は国会議員の方が視察に来たということもありましたが、今、一番ネックになっているのは、国としては、以前は自殺対策の補助金としてハード事業が含まれていたが、数年前に無くなり、ソフト面で幅広く対策することで進んでいる。

全国の事例では、ハード的な部分で実施して自殺者が減っていることもあるため、そのような視点を持って検討していかなければならないと思っている。ただ、今回の話が出ている場所をハードで対策すると結構な金額となることもあり、まずはソフト面で、市としてできることを実施していかなければならないと思っている。

また、今日の新聞報道で、我々が自殺多発地点と呼んでいる今お話ししている場所で、通報をして、自殺を思い留まらせて表彰された方の記事があった。このことも対策を講じている成果だと思っておりますので、ハードの面でも検討しながら、今できるソフト面の対策を継続して実施していきたいと考えている。

会長：自殺対策に関する補足説明が事務局からありました。この項目を全体から見るとがん検診や健康診査などがあります。特に、こころの体温計アクセス数は4年度から比べると倍ぐらいに増えている。実は、令和4年度はB評価の項目であったが、啓発的なものを含め、検診の受診者数が増えていることもあり評価が高くなっている。前回より取り組みをしっかりとやっているということで担当としてはB評価からA評価にしています。全体的に考えるとA評価が妥当ではないかと思いますがどうでしょうか。

委員：異議なし。

会 長：3つ目についてですが、こちらも前年度から継続して実施している事業となりますが、ご意見ございますか。

委 員：夜間などの救急体制は、市民はどのように把握しているのでしょうか。救急対応している病院がわかれば救急車を呼ばなくても自分の車で家族を連れて行くこともできる。

事務局：休日の診療体制は広報でお知らせしている。また、休日夜間の救急病院については、ホームページ上でお知らせしており、事前に病院に連絡するよう記載しております。今後、広報紙でもお知らせできるよう検討します。

会 長：評価としてはAでよろしいでしょうか。

委 員：異議なし。

会 長：次に基本目標4となります。事務局より説明願います。

事務局：進捗状況評価シートに基づいて説明。

会 長：基本目標4は、令和4年度からの考え方が踏襲されており、評価としても前年度と同様にすべての項目においてA評価となっています。定量的数値についても上がっているものが多く、目標どおり進んでいるものとして3項目ともA評価としてよろしいでしょうか。

委 員：異議なし。

会 長：次に基本目標5となります。事務局より説明願います。

事務局：進捗状況評価シートに基づいて説明。

会 長：1つ目の項目は前年度同様のA評価であり、2つ目の項目は前年度がB評価でしたが、担当としてはA評価としている。まず、1つ目の項目でご意見等ございませんか。ファミリーサポートセンターの事業は定着しているものになっていますよね。

委 員：会員の入れ替わりはありますけど、会員数は安定しており、なくてはならない事業と認識しています。

また、登別市は子育てに力を入れており、4か所の拠点で事業を行っており、しっかりとした体制が整っている。

会 長：それでは、1つ目の項目はAでよろしいでしょうか。

委 員：異議なし。

会 長：登別市子ども見守り強化事業において、対象範囲を拡大したこともあり、支援

対象児童等見守り訪問回数が増えている。この辺の丁寧な対応を行っていることもあり、トータル的にA評価となっている。

2つ目の項目にご意見ございますか。なければA評価でよろしいでしょうか。

委員：異議なし

会長：次に基本目標6となります。事務局より説明願います。

事務局：進捗状況評価シートに基づいて説明。

会長：0歳から高齢者までとなると、男女共同参画やジェンダーに対する理解がおしなべて得られることは難しいと思っています。世界的に見ても日本の順位は低く、国会議員でも女性が少ない状況である。

取り組みとしては、男女共同参画における作品展はずっと継続しているものであり、小学生ぐらいの小さいうちからの啓発活動が重要であり、担当としても地道な啓発活動を続けており評価に値するが、A評価まではつけるという要素がないということでB評価となっている状況である。

何かご意見等ございませんか。なければ項目の1と2について、それぞれB評価としてよろしいですか。

委員：異議なし。

会長：最後に基本目標7となります。事務局より説明願います。
(定量的指標として、公開ケース研究会の参加人数を追加。)

事務局：進捗状況評価シートに基づいて説明。

会長：1つ目についてですが、民生委員・児童委員や社会福祉協議会などの諸活動が大きく寄与し、評価が高くなっていると思う。

評価としては、A評価となっていますがよろしいでしょうか。ご意見等ございますか。

委員：異議なし。

会長：2つ目は防災の関係です。一昨年は連合町内会主催の全市一斉の防災避難訓練を行っており、令和5年度についても各町内会で防災の日に合わせて独自の訓練などを行っている。令和6年度については、厳冬期での防災訓練を行政が計画している。また、先ほど議論のありました個別避難計画については、行政の指導力を発揮して広めてもらいたいところです。

何かご意見等ございますか。なければA評価としてよろしいですか。

委員：異議なし。

会長：3つ目の項目に移ります。町内会と連携した取り組みや啓発を中心とした活動を行っています。犯罪発生件数が100件を超えており、相談件数は200件以

上ある現状で、相談の中身の分析も必要ですが、取り組みの難しさもありB評価となっています。

ご意見等ございますか。なければB評価としてよろしいですか。

委員：異議なし。

会長：社会を明るくする運動では、小学生・中学生に対し意識を持たせることや啓発していく活動が行われています。ただ、コロナの影響があり活動が落ち込んで戻りきっていないということで担当としてはB評価としています。

ご意見等ございますか。なければB評価としてよろしいですか。

委員：異議なし。

会長：議事の1つ目の計画の評価が終わりました。ご意見等頂いた部分につきましては、次年度に繋げるということで整理させていただきます。

(2) 基本目標に係る総合評価の提出及び評価の取りまとめ方法について

会長：次に議事の2つ目に入りますので、事務局より説明願います。

事務局：基本目標に係る総合評価につきましては、会議で決定した評価結果を踏まえて、総合的に評価をして頂き、各分野の様々な視点から意見・課題などについて記入をお願いするものです。提出期限は令和7年1月24日（金）までと考えております。

また、総合評価の取りまとめ方法は、委員の皆様からの提出を受け、市民会議の会長・副会長・事務局で最終決定を行い、その結果を皆さまに送付させていただきますと思います。

会長：説明のありました内容でよろしいでしょうか。事務局より説明のあったとおり、総合評価を提出して頂き、とりまとめを行いますので、ご協力をお願いします。

(19時45分閉会)